令和8年度　博士後期課程進学に関する教員アンケート

主催・集計：新潟大学自然科学研究科附属教育研究高度化センター

対象：新潟大学の自然科学系に所属する教員（主に理・工・農学部の学生を指導）。その他、ご協力いただいた教員。

自然科学系の教員数：239名（人文社会科学系は216名）

主担当の学部を選択して下さい。

全体 (n=227)	人数	%
理学部	55	24.23
工学部	58	25.55
農学部	38	16.74
創生学部	9	3.96
教育学部	25	11.01
無回答	9	3.96
その他	33	14.54

指導中/指導経験がある教員のみ n= 158	人数	%
理学部	41	25.95
工学部	43	27.22
農学部	28	17.72
創生学部	2	1.27
教育学部	14	8.86
無回答	6	3.80
その他	24	15.19

所属が理系の教員のみ n= 153	人数	%
理学部	55	35.95
工学部	58	37.91
農学部	38	24.84
創生学部	0	0.00
教育学部	0	0.00
無回答	0	0.00
その他	2	1.31

その他：災害・復興科学研究所、日本酒学センター、法学部、経済学部、経済科学部、人文学部、国際交流センター

現在、博士後期課程の学生を指導していますか。

指導している	109	48.02
過去に指導したことがある	49	21.59
指導経験はない	69	30.40

指導している	109	68.99
過去に指導したことがある	49	31.01
指導経験はない	0	0.00

指導している	86	56.21
過去に指導したことがある	39	25.49
指導経験はない	28	18.30

博士前期課程時点で、どのような学生に博士後期課程への進学を勧めたいと思いますか。（複数選択可）

研究が好きな学生	184	81.06
粘り強く物事に取り組める学生	169	74.45
自ら考えて行動できる学生	160	70.48
論理的に考えられる学生	134	59.03
将来研究職を志望している学生	115	50.66
これまでの研究業績から、修了要件を満たす見込みのある学生	108	47.58
コミュニケーション能力がある学生	79	34.80
その他	23	10.13

研究が好きな学生	130	82.28
自ら考えて行動できる学生	116	73.42
粘り強く物事に取り組める学生	115	72.78
論理的に考えられる学生	93	58.86
将来研究職を志望している学生	86	54.43
これまでの研究業績から、修了要件を満たす見込みのある学生	82	51.90
コミュニケーション能力がある学生	58	36.71
その他	14	8.86

研究が好きな学生	129	84.31
自ら考えて行動できる学生	115	75.16
粘り強く物事に取り組める学生	113	73.86
論理的に考えられる学生	89	58.17
将来研究職を志望している学生	76	49.67
これまでの研究業績から、修了要件を満たす見込みのある学生	72	47.06
コミュニケーション能力がある学生	54	35.29
その他	13	8.50

【コメント】所属や指導経験によらず、上位3つに高い支持。

内容	n	回答に見られた意見
研究への意欲・進学意思	3	教員・研究者を目指す、研究をさらに深めたい、進学の意思がある
研究遂行に必要な能力・適性	6	研究者としての素養、専門力、研究に必要な能力、理解力、他者に説明する力、研究職に就く能力
粘り強さ・覚悟・精神的な強さ	6	研究に時間を割き、回り道もいとわない姿勢、真面目さ、精神的な強さ、不確実な将来を過度に恐れないこと、粘り強さ
人間性・倫理観	3	ハラスメントをしないこと、AI利用や盗用・剽窃のルールを守ること、素直さ
社会人経験や生活との両立	3	社会人学生の研究意欲、仕事と研究の時間の確保、社会人になってから進学を考える学生への言及

博士後期課程に進学する時点で、学生にどの程度の能力・レベルを求めますか。

専門知識		
非常に重要	57	25.11
重要	152	66.96
あまり重要でない	17	7.49
重要ではない	1	0.44

専門知識		
非常に重要	41	25.95
重要	103	65.19
あまり重要でない	13	8.23
重要ではない	1	0.63

専門知識		
非常に重要	26	16.99
重要	111	72.55
あまり重要でない	15	9.80
重要ではない	1	0.65

研究成果		
非常に重要	25	11.01
重要	107	47.14
あまり重要でない	79	34.80
重要ではない	16	7.05

研究成果		
非常に重要	16	10.13
重要	76	48.10
あまり重要でない	55	34.81
重要ではない	11	6.96

研究成果		
非常に重要	13	8.50
重要	65	42.48
あまり重要でない	60	39.22
重要ではない	15	9.80

研究への興味・意欲		
非常に重要	183	80.62
重要	44	19.38
あまり重要でない	0	0.00
重要ではない	0	0.00

研究への興味・意欲		
非常に重要	127	80.38
重要	31	19.62
あまり重要でない	0	0.00
重要ではない	0	0.00

研究への興味・意欲		
非常に重要	121	79.08
重要	32	20.92
あまり重要でない	0	0.00
重要ではない	0	0.00

論理的思考

非常に重要	107	47.14
重要	116	51.10
あまり重要でない	4	1.76
重要ではない	0	0.00

論理的思考

非常に重要	73	46.20
重要	81	51.27
あまり重要でない	4	2.53
重要ではない	0	0.00

論理的思考

非常に重要	65	42.48
重要	84	54.90
あまり重要でない	4	2.61
重要ではない	0	0.00

英語力

非常に重要	18	7.93
重要	130	57.27
あまり重要でない	72	31.72
重要ではない	7	3.08

英語力

非常に重要	10	6.33
重要	94	59.49
あまり重要でない	50	31.65
重要ではない	4	2.53

英語力

非常に重要	8	5.23
重要	90	58.82
あまり重要でない	49	32.03
重要ではない	6	3.92

学業成績（GPA等）

非常に重要	6	2.64
重要	67	29.52
あまり重要でない	114	50.22
重要ではない	40	17.62

学業成績（GPA等）

非常に重要	4	2.53
重要	50	31.65
あまり重要でない	77	48.73
重要ではない	27	17.09

学業成績（GPA等）

非常に重要	3	1.96
重要	33	21.57
あまり重要でない	87	56.86
重要ではない	30	19.61

主体性

非常に重要	155	68.28
重要	70	30.84
あまり重要でない	2	0.88
重要ではない	0	0.00

主体性

非常に重要	105	66.46
重要	52	32.91
あまり重要でない	1	0.63
重要ではない	0	0.00

主体性

非常に重要	101	66.01
重要	51	33.33
あまり重要でない	1	0.65
重要ではない	0	0.00

コミュニケーション能力

非常に重要	46	20.26
重要	156	68.72
あまり重要でない	21	9.25
重要ではない	4	1.76

コミュニケーション能力

非常に重要	31	19.62
重要	108	68.35
あまり重要でない	15	9.49
重要ではない	4	2.53

コミュニケーション能力

非常に重要	27	17.65
重要	106	69.28
あまり重要でない	17	11.11
重要ではない	3	1.96

【コメント】所属によらず同様の傾向。指導経験による細かな違いは青でハイライト

これまでに指導された博士後期課程の学生や、ご自身の博士後期課程での経験を踏まえ、博士後期課程で特に成長すると感じる能力は何ですか。（3つまで選択）

専門知識・専門性	135	59.47
論理的思考力	132	58.15
課題発見・解決能力	123	54.19
論文執筆能力	94	41.41
主体性・自立性	84	37.00
データ解析能力	48	21.15
英語による読解・発信能力	23	10.13
コミュニケーション能力	22	9.69
リーダーシップ	11	4.85
その他	9	3.96

論理的思考力	99	62.66
専門知識・専門性	94	59.49
課題発見・解決能力	85	53.80
論文執筆能力	61	38.61
主体性・自立性	51	32.28
データ解析能力	35	22.15
コミュニケーション能力	17	10.76
英語による読解・発信能力	14	8.86
リーダーシップ	10	6.33
その他	8	5.06

論理的思考力	87	56.86
専門知識・専門性	87	56.86
課題発見・解決能力	82	53.59
論文執筆能力	63	41.18
主体性・自立性	55	35.95
データ解析能力	34	22.22
コミュニケーション能力	19	12.42
英語による読解・発信能力	19	12.42
リーダーシップ	10	6.54
その他	3	1.96

【コメント】所属によらず同様の傾向。

学生が博士課程への進学をためらう理由として、多いと感じるものは何ですか。（3つまで選択）

経済面（生活費・学費など）	182	80.18
就職への不安	166	73.13
周囲に博士学生が少ない、相談できる人がいない	72	31.72
研究とライフプラン（結婚・出産など）の両立	56	24.67
標準修業年限で研究成果を出せるか（論文執筆、学位取得）	53	23.35
毎日研究を続けられるか、モチベーションを保てるか	52	22.91
現在の知識・経験は博士後期課程に進学するには十分か	40	17.62
その他	26	11.45
研究とプライベート（趣味・休養・家事など）の両立	25	11.01
英語力	9	3.96

経済面（生活費・学費など）	129	81.65
就職への不安	115	72.78
周囲に博士学生が少ない、相談できる人がいない	49	31.01
毎日研究を続けられるか、モチベーションを保てるか	38	24.05
標準修業年限で研究成果を出せるか（論文執筆、学位取得）	37	23.42
研究とライフプラン（結婚・出産など）の両立	34	21.52
現在の知識・経験は博士後期課程に進学するには十分か	26	16.46
その他	22	13.92
研究とプライベート（趣味・休養・家事など）の両立	18	11.39
英語力	6	3.80

経済面（生活費・学費など）	126	82.35
就職への不安	110	71.90
周囲に博士学生が少ない、相談できる人がいない	55	35.95
毎日研究を続けられるか、モチベーションを保てるか	37	24.18
標準修業年限で研究成果を出せるか（論文執筆、学位取得）	31	20.26
研究とライフプラン（結婚・出産など）の両立	30	19.61
現在の知識・経験は博士後期課程に進学するには十分か	26	16.99
その他	19	12.42
研究とプライベート（趣味・休養・家事など）の両立	19	12.42
英語力	6	3.92

【コメント】所属によらず同様の傾向。経済面・就職が筆頭。次点でロールモデルの不在。

博士後期課程への進学を迷っている学生へ、どのようなアドバイスをしますか。（複数選択可）

一度研究に本気で取り組んでみる価値がある	104	45.81
企業でも博士人材への期待は高まっている	79	34.80
まずは研究を楽しんでほしい	76	33.48
経済面の不安は金銭支援制度で解消できる	74	32.60
博士後期課程で大きく成長できる	67	29.52
将来の進路の選択肢が広がる	58	25.55

一度研究に本気で取り組んでみる価値がある	68	43.04
経済面の不安は金銭支援制度で解消できる	60	37.97
企業でも博士人材への期待は高まっている	57	36.08
まずは研究を楽しんでほしい	52	32.91
将来の進路の選択肢が広がる	48	30.38
博士後期課程で大きく成長できる	45	28.48

一度研究に本気で取り組んでみる価値がある	67	43.79
経済面の不安は金銭支援制度で解消できる	65	42.48
企業でも博士人材への期待は高まっている	56	36.60
まずは研究を楽しんでほしい	56	36.60
将来の進路の選択肢が広がる	49	32.03
博士後期課程で大きく成長できる	44	28.76

【コメント】所属によらず同様の傾向。特定の項目に強く偏らず、さまざまな意見がある。

博士後期課程進学を検討している学生へ、その他具体的なアドバイスやメッセージがあればご記入ください。

【コメント】

進学を勧めたい学生の特徴として、研究への関心や意欲、主体性、粘り強さが繰り返し挙がった。「自分が知りたいこと・取り組みたいことがあるか」「困難があっても続ける覚悟があるか」を重視する意見。これは選択式で多かった「研究が好き」「自ら考えて行動できる」「粘り強く取り組める」といった回答と重なる。

博士課程で伸びる能力については、知識を得るだけでなく、自分で研究を進める力、論理的に考える力、研究成果を生み出す力、他分野への関心などが示された。博士課程の経験を、専門分野以外にも応用できる力につなげるという見方もあった。

進学をためらう理由に関しては、就職先やキャリアの見通しへの懸念が23名、経済的支援への言及が4名。自由記述でも、分野によっては修了後の就職が厳しい、研究職の給与や雇用が安定しない、生活費や研究費の支援が必要だという声が挙がった。一方で、博士人材の需要は高まっている、企業や官公庁にも進路がある、博士号によって選択肢が広がるという見方もある。選択式集計でも、進学をためらう理由として経済面と就職への不安が多く挙がっていた。

【反対意見を含む見解の違い】

進学を積極的に勧める意見には、「迷ったら進学してよい」「研究に熱中できる機会は限られている」「研究を通じて成長できる」「企業でも博士人材の活躍が期待される」といったものがあった。就職してから博士課程に戻る道や、働きながら学位取得を目指す方法を挙げる回答も。

一方で、安易な進学を勧めない意見も複数挙がった。博士号取得や修了後の就職は保証されず、分野によっては就職が厳しいため、迷っている段階なら進学を勧めないという意見。「研究に強い関心がないなら進学しない方がよい」「一度就職してから研究への気持ちを確かめてもよい」という意見も。

進学のタイミングについても見解が分かれており、少しでも進学したい気持ちがあるなら早く進む方がよいという意見がある一方、まず就職してから博士課程に戻る選択肢を考えてもよいという意見があった。

また、経済的な不安は金銭支援制度で解消できるという励ましに対し、生活費や研究費の支援を十分に整えるべきだという指摘も。自由記述では、制度や支援の充実だけでなく、指導教員・研究環境の選び方や、研究成果・キャリアに関する具体的な情報を早めに得る必要性も述べられていた。

主なテーマ	n
研究への興味・意欲や、強い覚悟を重視	18
自分で進路を決め、責任を持って継続する姿勢を重視	17
就職・キャリアの見通しや選択肢に言及	23
経済的支援や研究費・収入の必要性に言及	4